

# 5 安塚・浦川原・大島地域

## 1) 地域の概要

《位置》  
 ●安塚・浦川原・大島地域は、上越市の東部に位置し、田園地域と中山間地域の接点となっている浦川原区、主に中山間地域である安塚区・大島区の地域です。  
 《都市計画上の位置づけ》  
 ●本地域は全域が都市計画区域外になっています。

## 1 地域資源

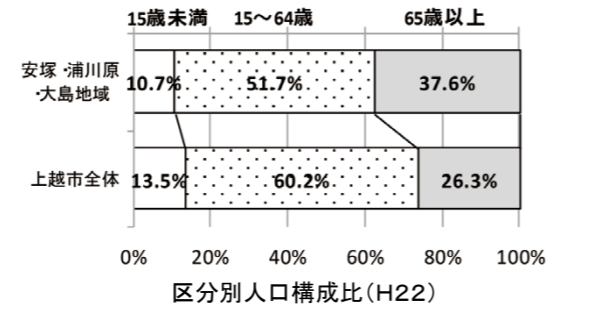
- 本地域には、豊かな自然環境に囲まれた集落の中で人々が生活を営む中山間地域が広がっています。
- 国指定文化財である虫川の杉、小黒専敬寺や願聖寺、安塚神社（諏訪神社）などの神社仏閣、雪室（雪中貯蔵施設）を併設した道の駅雪のふるさとやすづか、あさひの里田麦ぶなの森園、全長80kmのロングトレイルが楽しめる信越トレイル、冬はスキー、夏は温泉や食事などが楽しめる雪だるま高原キュービッドバレイ、温泉施設（ゆきだるま温泉雪の湯）など、地域の自然や歴史、雪をいかした観光・文化資源があります。
- 山々に囲まれた美しい棚田で収穫された米、日本酒、そば、自然薯などの特産品があり、これらの物産品を扱う雪だるま物産館などの観光資源があります。また、自然散策・農林業体験・環境学習・民泊などの数多くの体験メニューを提供する越後田舎体験に取り組んでいます。
- 安塚区では、「雪のふるさと安塚」をキャッチフレーズに雪をテーマにした様々な取組が、一年を通じて地域ぐるみで展開されているほか、牧区も含む4つの区では「灯の回廊」と称した親雪連携イベントを実施しています。
- また、安塚区内には、雪室をいかした8か所の雪冷房施設が整備され、地域全体で雪の利活用に取り組んでいます。
- 中山間地域には、霧ヶ岳、葛蒲高原、直峰松之山大池県立自然公園、小海の池、鼻毛の池などの自然資源があります。



自然環境に囲まれた集落



越後田舎体験



## 2) 地域の現状と課題

- 行政、商業、医療などの生活サービスが受けられる安心して暮らせるまちを維持・形成するための拠点の形成や、地域の特性に配慮した適正な土地利用を図ることにより、暮らし続けられる生活環境の維持に取り組む必要があります。
- 将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークが必要です。
- 上越魚沼地域振興快速道路の整備促進や、自然資源、観光・文化資源にみがきをかけて、市内外との交流・連携の充実に取り組む必要があります。

## 3) 本地域が担う役割

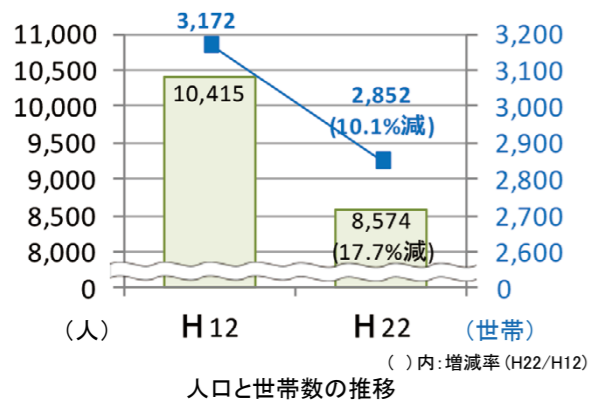
『豊かな地域資源や自然環境の中で暮らし続けられる地域』としての役割や、水と緑・歴史などの地域資源と自然環境をいかした体験交流事業による市内外からの観光交流など『産業、自然、農業、観光・文化資源などをいかした交流・連携を進める地域』としての役割を担います。

## 4) 地域づくりの方針

- 浦川原区、安塚区、大島区の中心的エリアにおける行政機能や商業、医療などの日常生活に欠かせない機能を維持するとともに、生活環境や農業環境、自然環境などの維持・確保を進め、将来にわたって暮らし続けられる地域づくりを目指します。
- 将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。また、上越魚沼地域振興快速道路の整備促進に取り組むとともに、幹線道路や生活道路の適正な維持管理及び整備などに取り組めます。
- 自然資源や観光・文化資源などの活用により、市内外との交流・連携を支援します。

## 2 人口・世帯数

- 平成12年と比較し、平成22年時点では人口、世帯数ともに減少傾向にあります。
- 平成22年時点では、高齢化率は市の平均よりも高く、15歳未満の人口比率は市の平均よりも低い状況になっています。



## 1 めりはりのある土地利用の推進

暮らしの維持  
 ●本地域内にある商業地、居住地、工業地、農地、観光・レジャー施設、森林などの現在の配置を踏まえつつ、暮らしやすい住環境を維持するため、関係分野と連携しながら、適正な土地利用を検討します。  
 ●集落機能の維持を図るため、様々な施策と連携しながら、一定規模以上の開発の規制誘導や生活基盤の維持に取り組みます。

農地自然  
 ●田園地域では、農業の担い手となる地域住民の暮らしの維持・確保のため、関係分野と連携しながら、優良な農地の維持・保全に向けた適正な土地利用や、農村特有の美しく緑豊かな田園景観の維持・保全や自然資源の保全に向けた土地利用を検討します。  
 ●中山間地域では、農林分野の施策に基づき、農業生産活動が持続的に行われるよう、農地の保全を図るとともに、美しい自然環境が後世に引き継がれるよう、豊かな森林環境の保全を図ります。

交流・連携  
 ●地域住民が身近に自然と親しむことができる霧ヶ岳、葛蒲高原、直峰松之山大池県立自然公園、小海の池、鼻毛の池、豊かな森林、水源保護地区などの様々な自然資源の活用や、虫川の杉、小黒専敬寺、願聖寺、安塚神社（諏訪神社）、道の駅雪のふるさとやすづか、あさひの里田麦ぶなの森園、信越トレイル、雪だるま高原キュービッドバレイ、温泉施設、雪だるま物産館などの観光・文化資源の活用により、市内外との交流・連携を支援します。



あさひの里田麦ぶなの森園 (大島区)

防災  
 ●安全・安心な暮らしを確保するため、行政と地域住民が連携しながら、土砂災害、洪水、なだれなどに対する防災面を考慮して、森林の保全や土地利用の規制・誘導を検討します。

## 2 拠点の形成

浦川原区、安塚区、大島区の中心的エリア

※中心的エリア:総合事務所周辺

- 浦川原区の中心的エリアにおいては、日常生活に欠かせない機能や、周辺の拠点を支える機能の維持・集積を図るとともに、地区内の集落や地区外からの交通アクセスを確保し、交流や連携が図られる拠点を目指します。
- 安塚区、大島区の中心的エリアにおいては、日常生活を支える拠点の形成や日常生活に欠かせない機能の維持・集積を図るとともに、地区内の集落や地区外からの交通アクセスを確保し、交流や連携が図られる拠点を目指します。
- 将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。

## 3 道路ネットワークの確保

広域  
 ●各拠点との連携を強化するため、また広域的な交流と救急医療体制の充実を図るため、上越魚沼地域振興快速道路及びその周辺道路の整備を促進します。

拠点間  
 ●国道・県道については、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所の改善に向けた道路整備を促進します。

地域内  
 ●地域内の生活道路では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組めます。



上越魚沼地域振興快速道路

## 4 公共交通ネットワークの確保

地域全体  
 ●これまでの鉄道や路線バス、スクール混乗バスなどの地域公共交通を基本としながら、人口減少や少子高齢化など社会経済情勢の変化や地域の実情を踏まえ、利用状況に応じた運行内容、ダイヤの見直し、需要に見合った新たな地域公共交通の導入などにより、地域公共交通を維持・確保します。

鉄道  
 ●利用者のニーズ（移動需要）を踏まえた運行本数やダイヤ設定、及び越後湯沢駅における上越新幹線との乗り換えがスムーズに行えるダイヤの設定などを働きかけます。  
 ●ほくほく線から信越本線、上越妙高駅への直通運転及び黒井駅停車の維持・増便を働きかけます。

## 5 住民参加による景観づくりの推進

●景観づくり重点区域における魅力ある景観の形成を図るため、安塚区での住民参加による景観づくりの取組を引き続き支援するほか、浦川原区、大島区で取り組まれている景観の維持・保全の取組について、支援します。

## 6 安全・安心な暮らしを支える基盤の形成

浸水対策  
 ●県により管理される一級河川の保倉川、小黒川、船倉川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川などについても適正な維持管理を推進します。

土砂災害対策  
 ●土砂災害が生じる恐れのある区域では、行政と地域住民が連携した土砂災害防止や被害軽減に向けた取組を検討します。

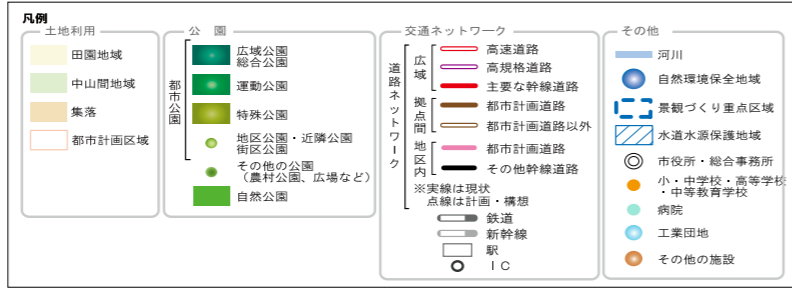
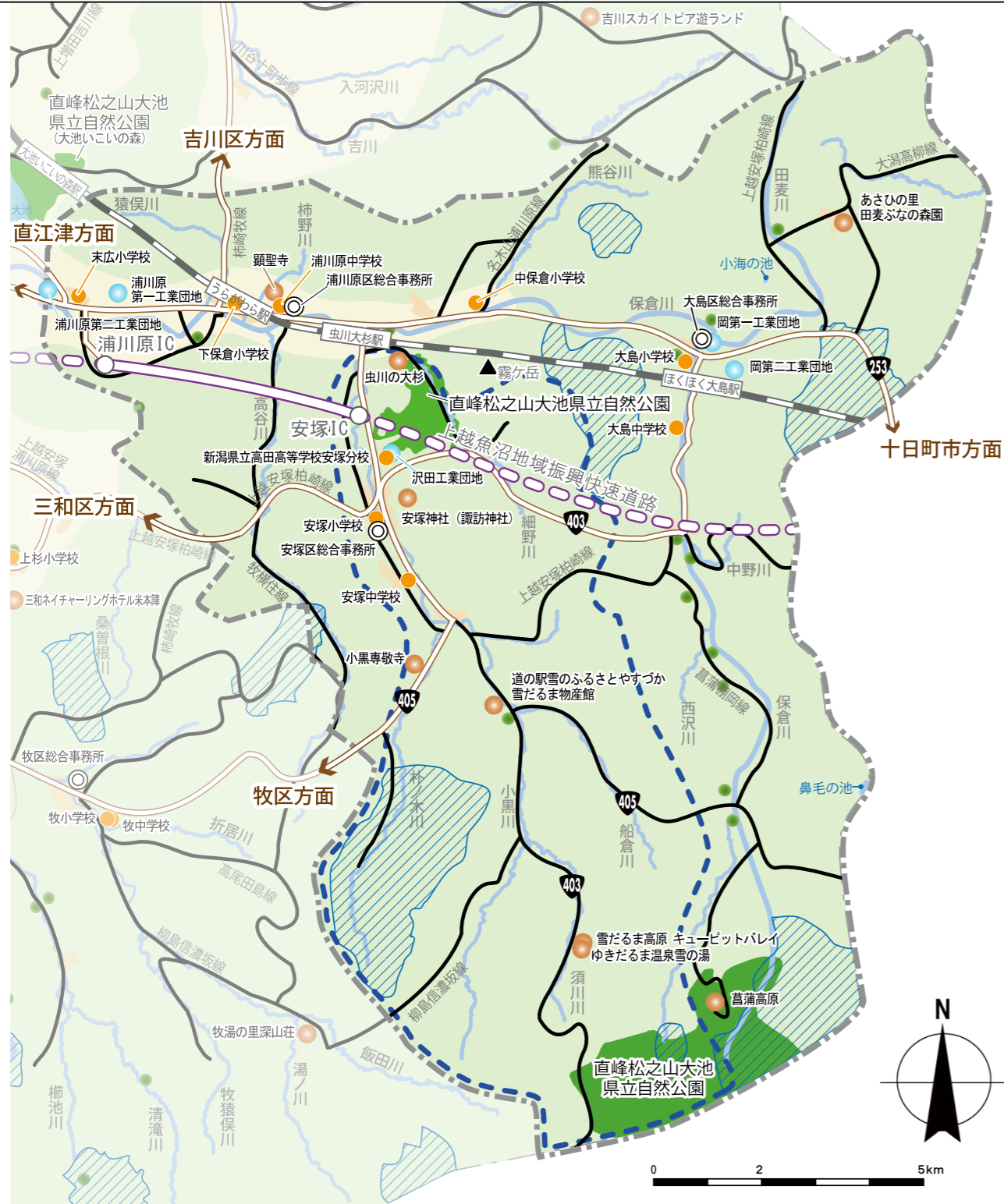
地域防災力  
 ●木造建物の耐震化、克雷住宅の普及による耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、行政と地域住民が連携しながら、避難場所となる広場や、避難路となる生活道路の確保などを検討します。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織の結成及び活動を支援します。

空き家対策  
 ●放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適正な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。

## 7 雪の利活用の取組の推進

●雪を強みとした克・利・親雪の取組として、地域住民との協働により、安塚区内における雪室及び雪冷房施設の利活用を引き続き推進するとともに、地域連携による親雪連携イベントなどの観光施策と連携した取組を支援します。

# 地域づくりの方針図(安塚・浦川原・大島地域)



## 6 牧・板倉・清里地域

### 1) 地域の概要

- 《位置》
  - 牧・板倉・清里地域は、上越市の南東部に位置し、主に田園地域と中山間地域である板倉区、主に中山間地域である牧区・清里区の地域です。
- 《都市計画上の位置づけ》
  - 本地域は全域が都市計画区域外になっています。

### 1 地域資源

- 田園地域には、一面に広がる高田平野の農地や屋敷林に囲まれた集落などの田園景観、妙高山を望む景観、牧区の牧歴史民俗資料館、板倉区の中村十作記念館、あしんの里記念館、地すべり資料館、清里区の上越清里星のふるさと館、菅原神社、温泉温浴施設(あしんの里やすらぎ荘、牧湯の里深山荘)などの観光・文化資源があります。
- 中山間地域には、深山のブナ林、清里ブナの森、全国ため池百選に選ばれた坊ヶ池、光ヶ原高原、豊かな森林などの自然資源のほか、豊かな自然環境に囲まれた農村集落や棚田などの里地里山景観、信越トレイルなどの自然と調和した観光資源などがあります。



### 2) 地域の現状と課題

- 行政、商業、医療などの生活サービスが受けられる安心して暮らせるまちを維持・形成するための拠点の形成や、地域の特性に配慮した適正な土地利用を図ることにより、暮らし続けられる生活環境の維持に取り組む必要があります。
- 将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークが必要です。
- 自然資源や観光・文化資源にみぎをきかけて、市内外との交流・連携の充実に取り組む必要があります。

### 3) 本地域が担う役割

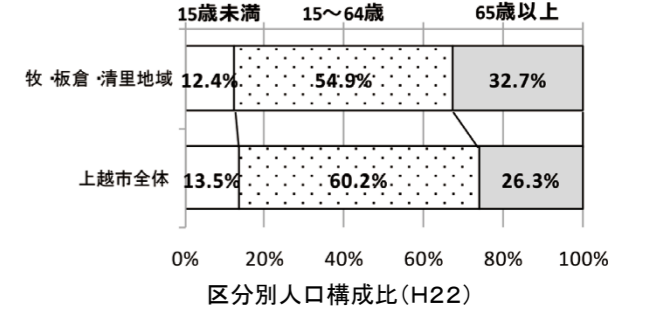
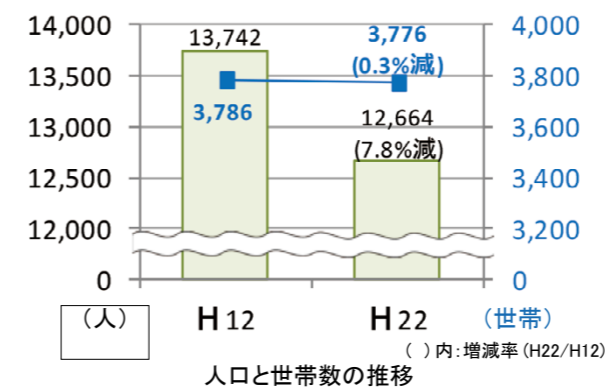
『豊かな田園・自然と共生する集落の暮らしが続けられる地域』や、『自然、農業、観光・文化資源などをいかした交流・連携を図る地域』としての役割を担います。

### 4) 地域づくりの方針

- 板倉区、牧区、清里区の中心的エリアにおける行政機能や商業、医療などの日常生活に欠かせない機能を維持するとともに、生活環境や農業環境、自然環境などの維持・確保を進め、将来にわたって暮らし続けられる地域づくりを目指します。
- 将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。また、幹線道路や生活道路の適正な維持管理及び整備などに取り組みます。
- 自然資源や観光・文化資源などの活用により、市内外との交流・連携を支援します。

### 2 人口・世帯数

- 平成12年と比較し、平成22年時点では人口、世帯数ともに減少傾向にあります。
- 平成22年時点では、高齢化率は市の平均よりも高く、15歳未満の人口比率は市の平均よりも低い状況になっています。



# 1 めりはりのある土地利用の推進

**暮らしの維持** ●商業地、居住地、工業地、農地、森林などの現在の配置を踏まえつつ、暮らしやすい住環境を維持するため、関係分野と連携しながら、適正な土地利用を検討します。  
●集落機能の維持を図るため、様々な施策と連携しながら、一定規模以上の開発の規制誘導や生活基盤の維持に取り組みます。

**農地自然** ●田園地域では、農業の担い手となる地域住民の暮らしの維持・確保のため、関係分野と連携しながら、優良な農地の維持・保全に向けた適正な土地利用や、農村特有の美しく緑豊かな田園景観の維持・保全や自然資源の保全に向けた土地利用を検討します。  
●中山間地域では、農林分野の施策に基づき、農業生産活動が持続的に行われるよう、農地の保全を図るとともに、美しい自然環境が後世に引き継がれるよう、豊かな森林環境の保全を図ります。

**交流・連携** ●地域住民が身近に自然と親しむことができる深山のブナ林、清里ブナの森、坊ヶ池、光ヶ原高原、豊かな森林、水源保護地区などの様々な自然資源の活用や、信越レール、田園景観や里地里山景観、妙高山を望む景観、牧歴史民俗資料館、中村十作記念館、糸しんの里記念館、地すべり資料館、上越清里星のふるさと館、菅原神社、温泉風呂施設などの観光・文化資源の活用により、市内外との交流・連携を支援します。

**防災** ●安全・安心な暮らしを確保するため、行政と地域住民が連携しながら、土砂災害、洪水、なだれなどに対する防災面を考慮して、森林の保全や土地利用の規制・誘導を検討します。

# 4 公共交通ネットワークの確保

**地域全体** ●これまでの路線バスやスクール混乗バスなどの地域公共交通を基本としながら、人口減少や少子高齢化など社会経済情勢の変化や地域の実情を踏まえ、路線バスの再編やスクールバスとの重複路線の見直し（混乗化など）や利用状況に応じた運行内容の見直し、需要に見合った新たな地域公共交通の導入などにより、地域公共交通を維持・確保します。

**バス** ●妙高はねうまラインの新井駅や北陸新幹線の上越妙高駅へのアクセスの確保に向けて、鉄道と路線バス、路線バス同士などの乗り換えがスムーズになるようなダイヤ設定などを働きかけます。  
●利用者ニーズを踏まえた上越妙高駅への路線バスの乗り入れ、路線の新設、ダイヤ設定などを働きかけます。

# 5 安全・安心な暮らしを支える基盤の形成

**浸水対策** ●県により管理される一級河川の大熊川、別所川、榑池川、飯田川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川などについても適正な維持管理を推進します。

**土砂災害対策** ●土砂災害が生じる恐れのある区域では、行政と地域住民が連携した土砂災害防止や被害軽減に向けた取組を検討します。



地すべり(板倉区国川)

**地域防災力** ●木造建物の耐震化、克雷住宅の普及による耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、行政と地域住民が連携しながら、避難場所となる身近な公園・広場や、避難路となる生活道路の確保などを検討します。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織の結成及び活動を支援します。

**空き家対策** ●放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適正な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。

# 2 拠点の形成

板倉区、牧区、清里区の中心的エリア

※中心的エリア：総合事務所周辺

●板倉区の中心的エリアにおいては、日常生活に欠かせない機能や、周辺の拠点を支える機能の維持・集積を図るとともに、地区内の集落や地区外からの交通アクセスを確保し、交流や連携が図られる拠点を目指します。

●牧区、清里区の中心的エリアにおいては、日常生活を支える拠点の形成や日常生活に欠かせない機能の維持・集積を図るとともに、地区内の集落や地区外からの交通アクセスを確保し、交流や連携が図られる拠点を目指します。

●将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。

# 3 道路ネットワークの確保

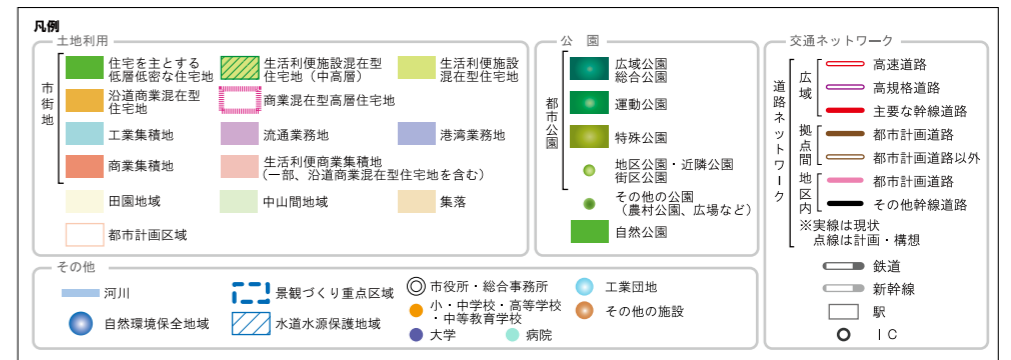
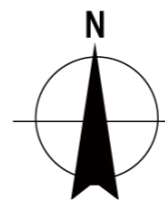
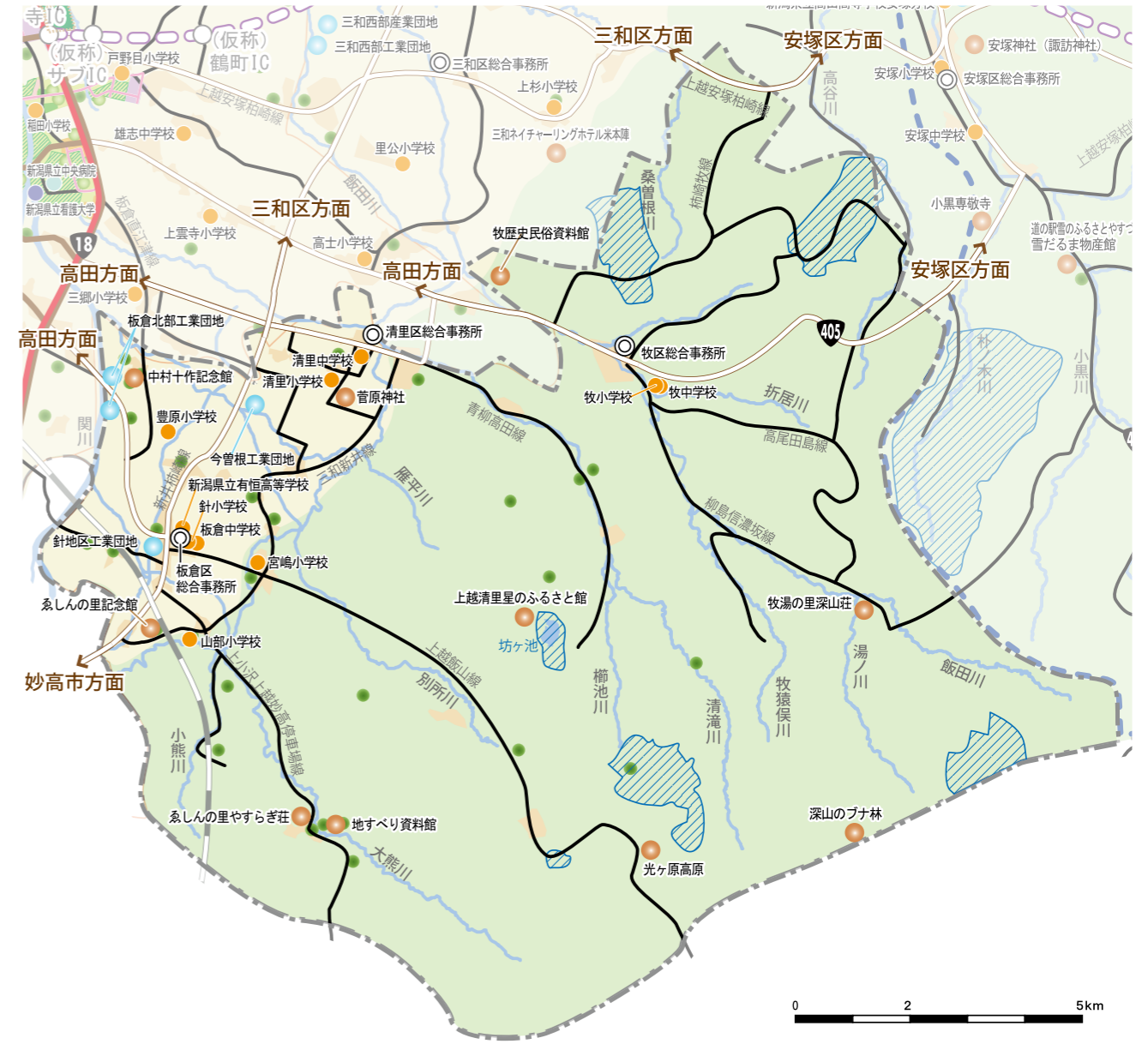
**拠点間** ●国道・県道については、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所への改善に向けた道路整備を促進します。

**地域内** ●地域内の生活道路では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組みます。



主要地方道新井柿崎線(板倉区針)

# 地域づくりの方針図(牧・板倉・清里地域)



# 7 名立地域

## 1) 地域の概要

- 《位置》  
 ●名立地域は、上越市の西部に位置し、主に日本海に面する沿岸部や二級河川の名立川沿川に集落が形成された地域です。  
 《都市計画上の位置づけ》  
 ●本地域は、全域が都市計画区域外になっています。

## 1 地域資源

- うみてらす名立やシーサイドパーク名立、名立崩れ、鳥ヶ首岬灯台、日本海に夕日が沈む景観などの観光・文化資源があります。また、温泉施設（ろばた館）があります。
- 地域の南部には、久比岐県立自然公園を中心とする豊かな森林、水源保護地域（名立川水系）などの自然資源があります。
- 本地域には、タイ漁・エビ漁が盛んな名立漁港（第2種漁港）があります。



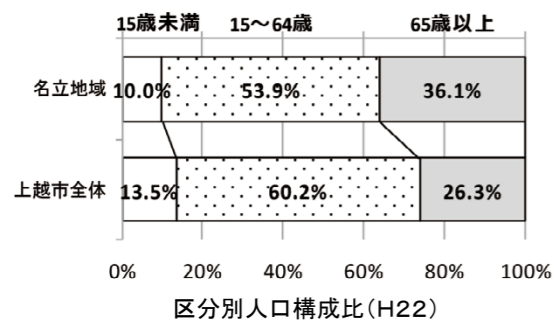
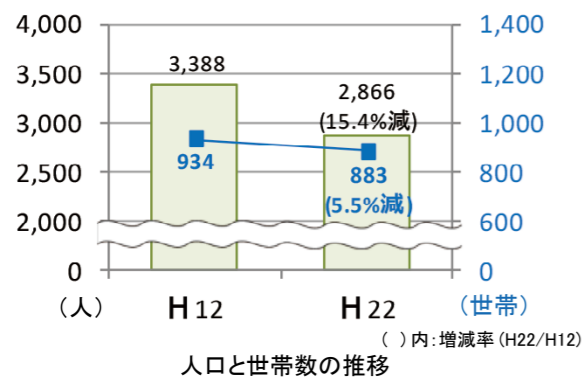
夕日の沈む日本海



名立崩れ

## 2 人口・世帯数

- 平成12年と比較し、平成22年時点では人口、世帯数ともに減少傾向にあります。
- 平成22年時点では、高齢化率は市の平均よりも高く、15歳未満の人口比率は市の平均よりも低い状況になっています。



出典：国勢調査

## 2) 地域の現状と課題

- 行政、商業、医療などの生活サービスが受けられる安心して暮らせるまちを維持・形成するための拠点の形成や、地域の特性に配慮した適正な土地利用を図ることにより、暮らし続けられる生活環境の維持に取り組む必要があります。
- 日本海に面する沿岸部や中山間地域をもつ本地域では、津波に伴う浸水被害、沿岸部における海岸浸食、土砂災害の危険がある区域が存在することから、安全・安心なまちづくりに取り組むことが必要です。
- 自然資源や観光・文化資源、名立漁港及び関連産業の集積などをいかして、市内外との交流・連携の充実に取り組む必要があります。

## 3) 本地域が担う役割

『豊かな自然と共生する集落の暮らしが続けられる地域』や、『自然、農業、漁業、観光資源などをいかした交流・連携を図る地域』としての役割を担います。

## 4) 地域づくりの方針

- 名立区の中心的エリアにおける行政機能や商業、医療などの日常生活に欠かせない機能を維持するとともに、生活環境、農林漁業環境、自然環境などの維持・確保を進め、将来にわたって暮らし続けられる地域づくりを目指します。
- 津波避難誘導看板の設置やハザードマップなどによる周知活動、海岸保全施設の整備促進、自主防災組織の支援などの防災・減災対策に取り組み、安全・安心な暮らしを支える環境の維持・確保を目指します。
- 自然資源、観光・文化資源、名立漁港及び関連産業の集積などの活用により、市内外との交流・連携を支援します。また、幹線道路や生活道路の適正な維持管理及び整備などに取り組めます。

## 1 めりはりのある土地利用の推進

- 集落機能の維持を図るため、様々な施策に基づく取組と連携しながら、一定規模以上の開発の規制誘導や生活基盤の維持に取り組めます。
- 農林分野の施策に基づき、農業生産活動が持続的に行われるよう、農地の保全を図るとともに、美しい自然環境が後世に引き継がれるよう、豊かな森林環境の保全を図ります。
- 久比岐県立自然公園などの自然環境の活用や、うみてらす名立、シーサイドパーク名立、温泉施設、名立崩れ、鳥ヶ首岬灯台などの観光・文化資源や名立漁港及び関連産業などの活用により、市内外との交流・連携を支援します。
- 安全・安心な暮らしを確保するため、行政と地域住民が連携しながら、土砂災害、洪水、なだれなどに対する防災面を考慮して、森林の保全や土地利用の規制・誘導を検討します。



うみてらす名立

## 2 拠点の形成 名立区の中心的エリア

※中心的エリア：総合事務所周辺

- 名立区の中心的エリアにおいては、日常生活を支える拠点の形成や日常生活に欠かせない機能の維持・集積を図るとともに、地区内の集落や地区外からの交通アクセスを確保し、交流や連携が図られる拠点を目指します。
- 将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。



名立大町

## 3 道路ネットワークの確保

- 一般国道8号や一般県道東飛山名立線は、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所への改善に向けた道路整備を促進します。



一般国道8号沿道

- 地域内の生活道路では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組めます。

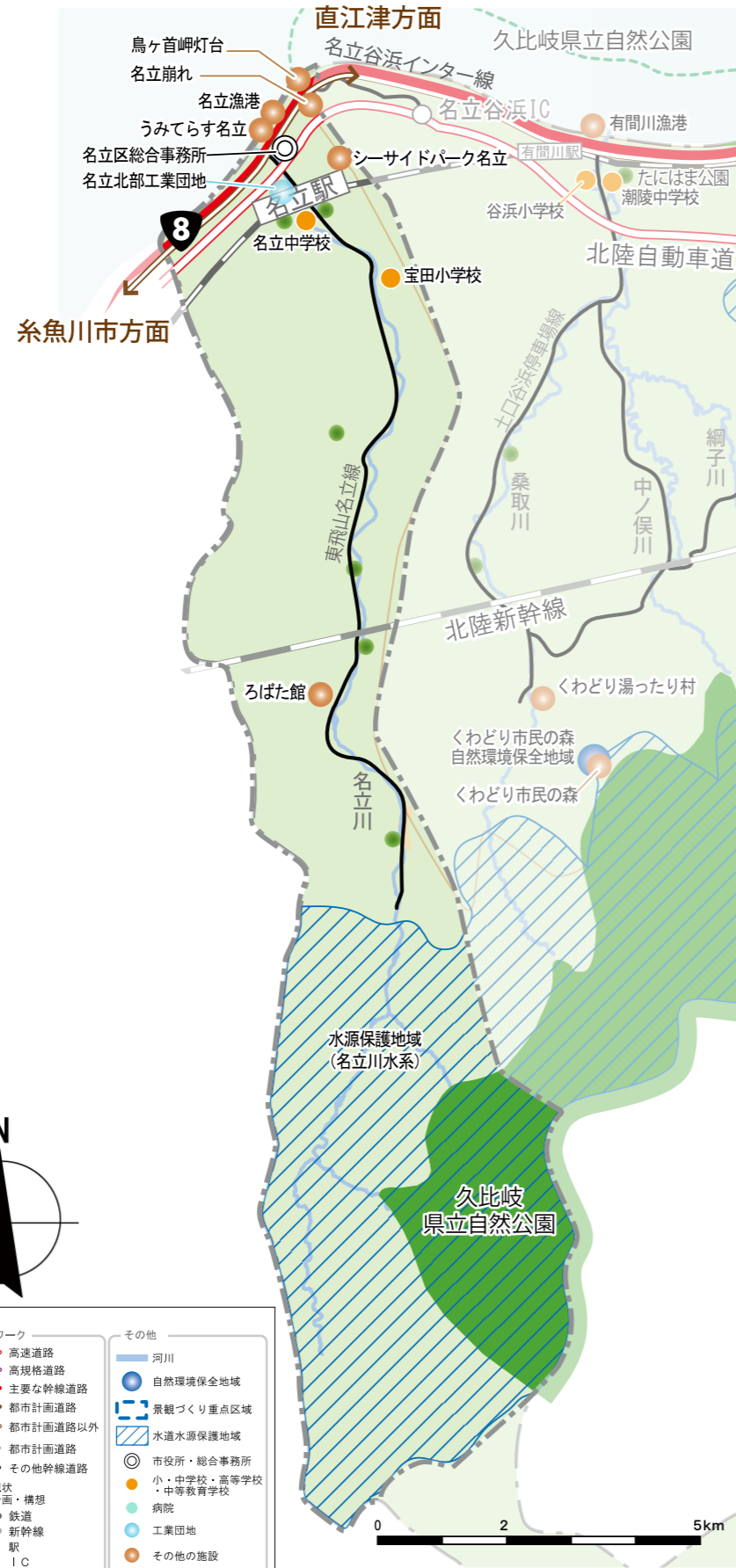
## 4 公共交通ネットワークの確保

- これまでの鉄道や路線バスなどの地域公共交通を基本としながら、人口減少や少子高齢化など社会経済情勢の変化や地域の実情を踏まえ、路線バスの再編やスクールバスとの重複路線の見直し（混乗化など）などにより、地域公共交通を維持・確保します。
- 利用者のニーズ（移動需要）を踏まえた運行本数やダイヤ設定、及び糸魚川駅における北陸新幹線との乗り換えがスムーズに行えるダイヤの設定などを働きかけます。

## 5 安全・安心な暮らしを支える基盤の形成

- 県により管理される二級河川の名立川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川などについても適正な維持管理を促進します。
- 津波発生時の避難対象地域においては、避難場所表示や津波避難誘導看板の設置、ハザードマップなどによる周知活動を図ります。
- 土砂災害が生じる恐れのある区域では、行政と地域住民が連携した土砂災害防止や被害軽減に向けた取組を検討します。
- 木造建物の耐震化、克雷住宅の普及による耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、行政と地域住民が連携しながら、避難場所となる身近な公園・広場や、避難路となる生活道路の確保などを検討します。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織の結成及び活動を支援します。
- 放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適正な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。
- 沿岸部の海岸浸食への対策として、海浜地の海岸保全施設の整備を促進します。

# 地域づくりの方針図（名立地域）



凡例	
<b>土地利用</b>	<b>公園</b>
田園地域	広域公園 総合公園
中山間地域	運動公園
集落	特殊公園
都市計画区域	地区公園・近隣公園 街区公園
	その他の公園 (農村公園、広場など)
	自然公園
<b>交通ネットワーク</b>	<b>その他</b>
高速道路	河川
高規格道路	自然環境保全地域
主要な幹線道路	景観づくり重点区域
都市計画道路	水道水源保護地域
都市計画道路以外	市役所・総合事務所
都市計画道路	小・中学校・高等学校 中等教育学校
その他幹線道路	病院
※実線は現状 点線は計画・構想	工業団地
鉄道	その他の施設
新幹線	
駅	
IC	

